

<全体分析>

試験時間	100分	解答問題数	4題
------	------	-------	----

解答形式

すべて空所補充である。

分量・難易（前年比較）

分量（減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加）

難易（易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化）

出題の特徴や昨年との変更点

小問集合1題と大問3題で構成される。[I]の小問は21年度以前と同様に3問に減少したが難易度は22年度と変わらなかった。また小問集合3問のうち2問が数学Ⅲであった。例年に比べて数学Ⅲが解きやすい出題だった。

その他トピックス

22年度に引き続き、論述、記述問題の出題が無く、すべて空所補充であった。

<大問分析>

問題番号	出題分野・テーマ	範囲	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）	難易度
[I](1)	三角比	数学I	余弦定理を用いて辺の長さの関係を調べる。	やや易
(2)	複素数平面	数学Ⅲ	2次方程式の解に対応する複素数平面上の2点について調べる。	やや易
(3)	微分法・積分法	数学Ⅲ	接線の方程式を求め、曲線によって囲まれた面積を求める。	やや易
[II]	確率	数学A	2人で腕相撲を行い、先に2勝した方に得点を与える。この試合を繰り返し行うとき、2人の得点が条件を満たす確率を求める。	標準
[III]	図形と方程式 数列・ベクトル 数列の極限	数学II 数学B 数学Ⅲ	曲線上の点 A_n における接線と、その曲線との接点以外の交点を A_{n+1} と定める。漸化式を求め、三角形 $A_1A_2A_3$ の重心の軌跡や、曲線で囲まれた面積などを求める。	標準
[IV]	微分法・積分法 三角関数 式と曲線 微分法	数学Ⅲ 数学II 数学Ⅲ 数学Ⅲ	座標平面上で接する3つの円の条件を用いて、三角形の面積の最大値や3円の周の長さの和の最大値を求める。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

例年、計算量が大変多い。手も足も出ないような極端な難問ではないが、100分という制限時間の中で全問解き切るのは困難である。

普段から論理的に深く考え、粘り強く計算をやり抜くことが重要である。また、機械的な計算を行うのみではなく、その操作の意味を考え、経験から結果を予想することも本学部の問題を攻略するうえで有効である。さらに、実戦を想定して、大問4題のセットから、時間内に解き切れる問題を見極め、直感を働かせて要領よく解答する練習をしておくことが望ましい。幅広い分野から出題されるが特に数学Ⅲの微分積分、確率と数列の融合、座標が絡む図形などが多いので、これらの分野は得意にしておきたい。